

M-2b 包括的評価ワークシート 20160304 Microsoft Word

鈴木さん 66歳 男性

経過：

鈴木さんは2年前から大腸がんの治療を受けています。
現在行っている抗がん剤により、口内炎と悪心が出ているようです。最近、腰椎の転移が見つかり、今後、放射線の治療を予定しています。腰部の痛みがあるため、妻に支えられて歩いています。食欲低下があるようで、食事量が減っています。倦怠感のためか、横になっていることが多くなっています。夜間は十分眠れていないようです。

鈴木さんが「つらいです」と言ってきました。

<担当医に対して>

「とにかく口の中の痛みと、吐き気ですね。それさえなければ楽なんですけどね。あとは仕方ないと思ってます。頑張ってもっと食べなければと思ってんですが、それがなかなか。腰も痛いし、なんだかだるくて。今は動く気になりませんが、治療すれば良くなるって期待していますよ。」

<看護師に対して>

「痛いし、吐き気もつらい。こんなにつらい思いをすることは思っていなかった。お金を払ってこんなつらい思いをするなんてね。退職金も切り崩してるんです。こんなことなら治療しないで、早く逝ったほうが家族のためなんじゃないかって思うときもあります。少しでもお金を残すほうが、家族のためなんじゃないかって。でも、死ぬのは怖いよ、死にたくないとも思う。人間って勝手ですよ。こんなことは家族には言えないよね、心配かけたくないから。」

<理学療法士に対して>

「痛いし、だるいし、動きたくても動けないんですよ。こうやって出来ない自分にいらいらするんです。もう高望みはしないので、せめて1人でトイレに行きたい。人に頼らず自分のことは自分でするって大事だと思うんです。これまでそうしてきたから。あまり妻に負担をかけたくないんです。妻はよくやってくれています。私の世話と家のことと。先月、娘夫婦に子供が生まれましたので、そのこともありますし。孫のことが唯一、希望の光ですよ。」